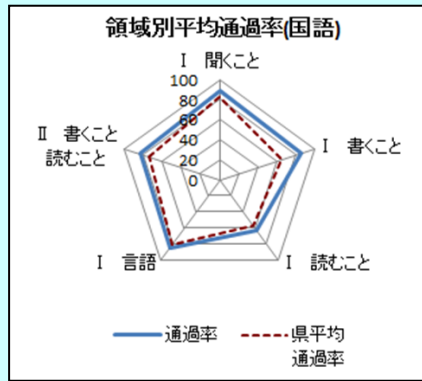


指導方法等の改善計画について〔国語科〕

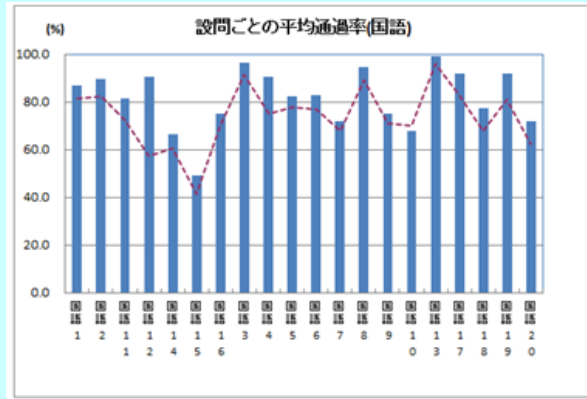
東広島市立 西条中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.6 %, 県 73.3%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○国語の結果において、タイプⅠは81.2%、タイプⅡは83.1%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考える。

○重点課題であった、「書くこと」の領域の通過率は、昨年度の54.9%から今年度は85.9%に改善した。これは、「書く活動」を単元の特色に応じて、継続して取り入れていったことによると考える。「聞くこと」は88.3%、「言語」84.4%、「書くこと読むこと」は83.1%で、それぞれ指導が一定の成果を挙げていると考えられる。しかし、読むことの通過率は63.4%であり、中でも「要旨の把握」は通過率が49.0%、段落相互の関係の把握が66.2%で、いずれも県平均は超えてはいるが、課題があることがはっきりした。なお、通過率が30%以下の生徒が1名おり、基礎学力定着のための支援が必要であると考ええる。

重点課題

課題1】

「要旨の理解」の問題の通過率が49.0%（広島県平均41.3%）である。文章から二つの語句を抜き出すべきところで、一つしか正しく抜き出せなかった生徒が40.7%いる。

【課題2】

「段落相互の関係の把握」の通過率が66.2%（広島県平均60.3%）である。一つの段落が表す意味を他の段落との関係でとらえられなかった生徒が21.4%いる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

説明的な文章の指導において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と事柄を読み分ける指導を、説明文の特徴を踏まえて行う。その際、目的や必要に応じて大切な情報を選択し、整理するという視点を生徒に持たせる。

【課題2】

段落ごとに内容をとらえさせたり、段落相互の関係を正しく抑えたりしながらさらに大きなまとまりごとに文章全体における役割をとらえさせる指導を行う。この際、導入部で既習の教材と使い、段落相互の関係のつかみ方を復習した後、主教材の学習を行うなど、指導展開の工夫を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H26「基礎・基本」		1年生 冬休み明けテスト	1年生 H26「基礎・基本」	1・2年生 学年末試験
目標値			80.0%		70.0%	77.0%	70.0%
実施後数値							

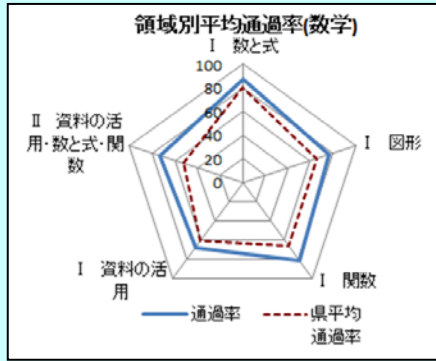
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H26「基礎・基本」		1・2年生 冬休み明けテスト	2年 H26「全国学力」	2年 学年末試験
目標値			80.0%		70.0%	77.0%	70.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [数学科]

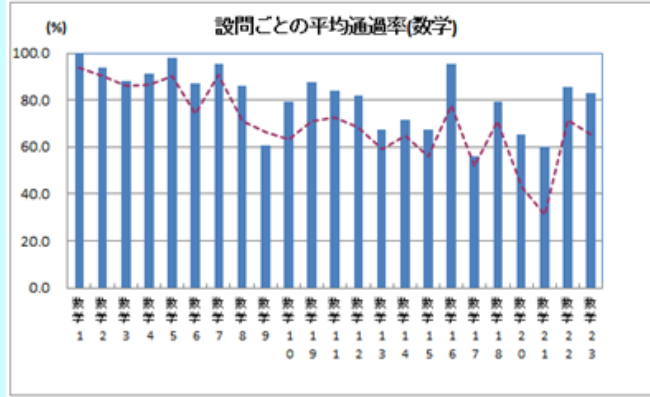
東広島市立西条中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.0%, 県 70.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○数学の結果において、タイプⅠは82.6%、タイプⅡは73.4%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられる。タイプⅡのうち、情報の傾向を読み取ったり、問題解決の方法を説明したりする問題の通過率は低くとどまった。

○昨年度は作図に関する問題の通過率が54.9%だったが、今年度は82.1%まで向上した。

重点課題

【課題1】

文章から不等式を立式する問題の通過率が60.7% (広島県平均66.1%) だった。不等号「 $<$ 」と「 \leq 」を明確に区別できていないための誤答が22.1%あった。

【課題2】

5チームの勝ち点の付け方について説明する問題通過率が60.0% (広島県平均31.2%) だった。2つのチームが同点で1位となることを表す式は答えられたが、説明ができていない生徒が26.2%いる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

文章から立式をする場合、文を区切り、その部分を文字式で表し、それを組み合わせ立式するという、手順を踏みながら式をつくらせることで、式の意味を理解させる。また、「より小さい (大きい)」「 \sim 以上 (以下)」などの不等号の向きを考える場面では、視覚的に大小をはっきりさせる方法を用い表すことで理解を定着させる。

【課題2】

授業の中で「 \sim になる理由を答えなさい」という発問を数多く取り入れる、思考においては、個人 \rightarrow 班 \rightarrow 全体と相互の考えを交流することで、定着率の低い生徒の理解を深める。また、レポート作成などにより、説明する力を育てる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1, 2年 後期第1回試験			1年生 H26「基礎・基本」	1, 2年 学年末試験
目標値			70.0%			80.0%	85.0%
実施後数値							

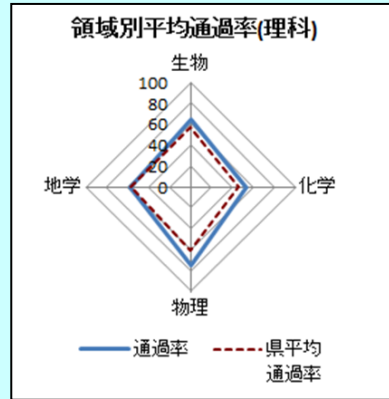
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1, 2年 後期第1回試験			1年生 H26「基礎・基本」	1, 2年 学年末試験
目標値			70.0%			80.0%	85.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

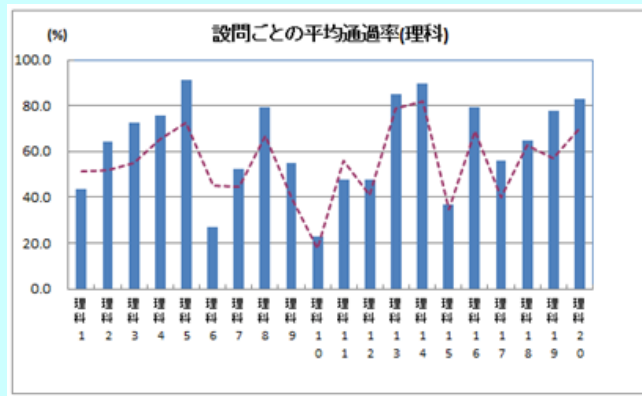
東広島市立西条中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 62.5%, 県 55.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○理科の結果において、タイプⅠは66.1%、タイプⅡは57.1%の通過率となっている。タイプⅠで通過率の高かった領域・内容は、物理「光の性質の利用法」(91.0%)、タイプⅡでは生物「結果に基づいた結論の導入」(82.8%)だった。タイプⅠで課題がある領域・内容は、地学「火山灰の観察方法」(29.2%)、タイプⅡでは化学「溶質の再結晶」(22.8%)であった。この結果から、分野によって定着の差が大きいと考えられる。

○昨年度の課題であった「仮説検証のための条件」の通過率は15.6%から79.3%へ、「実験結果の分析・解釈」は13.3%から55.9%へと向上し、改善が見られた。

重点課題

【課題1】

溶質の再結晶についてキーワードを使って説明する問題の通過率が22.8%（広島県平均17.6%）だった。このうち、グラフから具体的な値について読み取ることができなかったための準正答の割合が21.4%と高かった。

【課題2】

火山灰の観察方法についての問題の通過率が26.9%（広島県平均45.1%）だった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

仮説をもとにどのように実験結果を表やグラフに表わしていけば検証しやすいかを生徒に考えさせ、結果を整理させる。整理したものをもとに考察させ、結論と根拠を述べさせる。

【課題2】

目的や意味を十分理解させ実験を行わせる。そのため、課題について仮説を立てさせるだけでなく、その考えを交流させ、どんな実験方法で何がわかるのかを確認させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1, 2年 後期第1回試験		1, 2年 冬休み明け試験		1, 2年 学年末試験
目標値			50.0%		55.0%		65.0%
実施後数値							

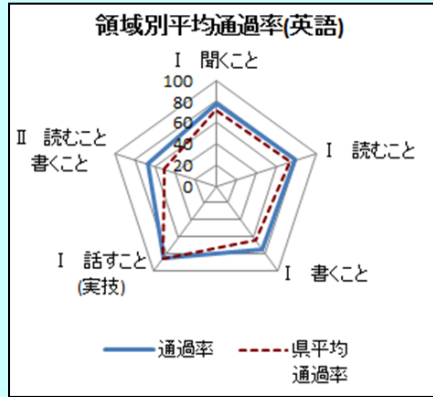
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1, 2年 後期第1回試験		1, 2年 冬休み明け試験		1, 2年 学年末試験
目標値			45.0%		55.0%		65.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [英語科]

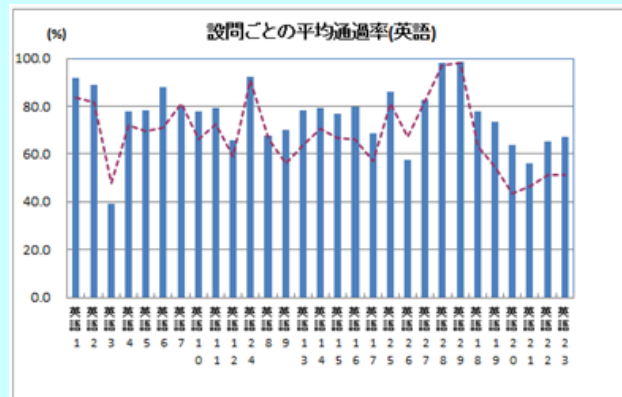
東広島市立西条中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.0%, 県 68.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○英語科の結果において、タイプⅠは78.3%、タイプⅡは67.1%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考える。

○聞くこと、話すことの領域の中に通過率が著しく低いものがある。また、書くことの領域でつながりや一貫性のある英文を書く問題の準正答率が非常に高い。これらの結果から、各領域での「正確さ」に課題があることがわかる。

○昨年度は話の流れを理解する問題の通過率が59.1%だったが、教科書の本文の読解指導の流れを工夫した結果、65.7%まで通過率が向上した。

重点課題

【課題1】

聞くことの領域で、会話の内容を理解しふさわしい応答を選ぶ問題の通過率が39.2% (広島県平均 47.8%) だった。応答の文の構造は理解しているが、代名詞の使い方を誤った生徒が57.3%いる。

【課題2】

話すこと (実技) で、曜日と日付を区別して話す問題の通過率が57.3% (広島県平均 67.1%) だった。質問を正しく聞き取れなかったことによる誤答が、38.5%あった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

主語と動詞の関係を正しくとらえさせるために、英語を聞いたり読んだりする活動に視覚的支援を効果的に取り入れる。また、代名詞に習熟させるために、名詞を代名詞に置き換えて文を書かせるドリルをしたり、代名詞を名詞に戻して音読させたりするなどの反復・繰り返しの学習を工夫する。

【課題2】

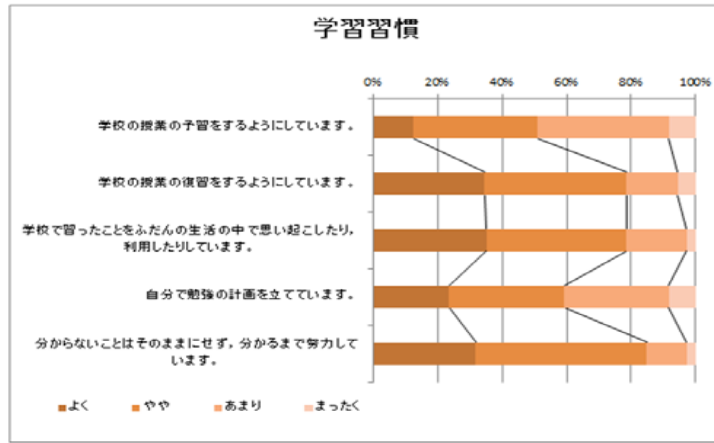
質問から必要な情報を正確に取り出すことができるよう、帯学習でQ&Aを継続的に行う。また、音声の似た単語を含んだ英文の聞き取りやディクテーションを行い、正確に聞き取る力を高める。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1, 2年 後期第1回試験		1, 2年 冬休み明け試験	1年生 H26「基礎・基本」	1, 2年 学年末試験
目標値			60.0%		70.0%	75.0%	80.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	前期末テスト		1, 2年 後期第1回試験		1, 2年 冬休み明け試験		1, 2年 学年末試験
目標値	40.0%		70.0%		80.0%		90.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

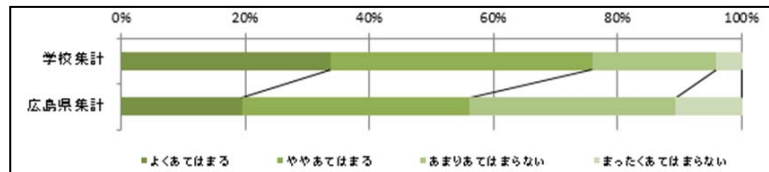
(1) 生活・学習



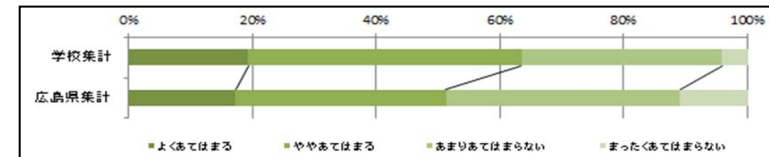
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
昨年度も課題であった「自分で勉強の計画をたてています。」の問いに「あてはまる」と答えた生徒が、59.3%と昨年度の54.3%からは5%あがっているが、他の項目と比較して低い値である。	自主勉強ノートの内容について計画的な学習ができるようアドバイスを引き続き行う。あわせて、家庭学習の定着していない生徒への個別の指導に力を入れる。 定期試験での学習計画表を用いて、自分の課題にあった学習を計画させる。	1・2	70.0%	生徒アンケート調査	2月		

(2) 教科

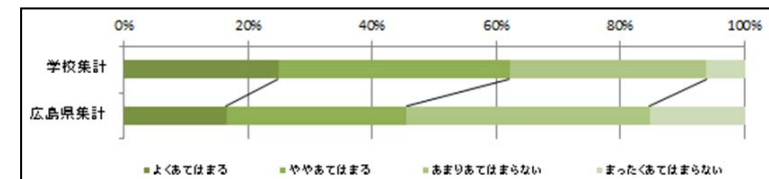
国語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。



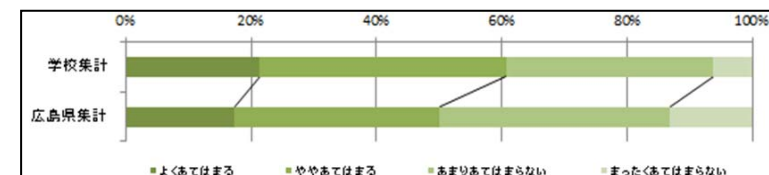
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに、理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしています。



英語の授業では聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。」に肯定的な回答をした生徒が75.1%であった。	学んだことが、実生活の中でどのように使うことができるのか、考える場面を設定する。具体的には「学習の評価カード」の項目に記入させ、交流させるようにする。	1・2	80.0%	生徒アンケート調査	2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに、理由をあげて説明しています。」の問いに「あてはまる」と答えた生徒が63.4%と他の項目と比較して低い。	授業の中で、ペアトークや4人組での話し合い活動を意図的に取り入れる。	2	80.0%	生徒アンケート調査	2月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしています。」の問いに「あてはまる」と答えた生徒が62.0%と低い。	自分で考える時間を確保する。また、班での話し合いを授業の中で積極的に取り入れ、自分の意見を発表する機会を増やしていく。	1・2	70.0%	生徒アンケート調査	2月		
英語	「英語の授業では聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。」の問いに「あてはまる」と答えた生徒が60.7%と低い。	聞く活動を増やし、聞いたことに対して、質問をしたり、感想や意見を述べたりすることができるような活動を増やす。	1・2	75.0%	生徒アンケート調査	2月		

